

H29 年度医療技術等国際展開推進事業専門家派遣報告書

医学医療系消化器外科(肝胆膵外科)・講師 大城 幸雄

派遣期間：平成 29 年 11 月 12 日 ～ 平成 29 年 11 月 17 日

11/13～16 の期間で、ベトナムチョーライ病院にて、主に、肝胆膵外科グループの交流、手術見学、コンサルテーション、また、一日を通じた消化器病セミナーに参加した。消化器病セミナーは、11/14 火曜に、午前、午後を通して、消化器外科、消化器内科が講堂に集まり、各専門家がそれぞれの最先端の臨床データ、治療の実際、研究成果を発表した。私は、自分の臨床、研究テーマである、肝胆膵外科の 3D 手術シミュレーションをはじめとした、IT 技術、コンピュータを活用した外科手術支援の取り組みについて講演を行った。チョーライ病院からは、外科からは、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術、臨床データの発表、腹腔鏡下 ISR（括約筋間直腸切除術または内肛門括約筋切除術）の手術、臨床データ、肝細胞癌手術、臨床データ、肝門部胆管癌の手術と臨床データの発表が行われた。内科からは、ピロリ菌駆除の実際と研究、NAFLD とメタボリックシンドローム、栄養管理、胃内視鏡下 ESD などの発表があった。積極的かつ活発な議論が繰り広げられた。入院患者がとても多く、プライバシーは全くなくワーキングスペースも十分とは言えない状況であった。回診は部長とともに、ベッドサイドで受け持ち医からのプレゼンテーションを聞き、レントゲン、CT、MRI フィルムを見て治療経過、治療方針を議論していく日本の昔を思わせる回診であった。手術では、肝臓腫瘍、膵腫瘍の手術を主に見学をした。手術手技は熟練しており手際よく短時間で終了した。デバイスは、電気メスと超音波切開装置を用いていた。ステイプラーは経済的理由により使用しないと Dr. MY が語っていた。ドレーンはゴム管を使用していた。肝腫瘍 2 例、食道癌 1 例のコンサルテーションがあった。すべて VIP の患者であり食道癌の患者は前首相の親類であった。いずれもシビアで治療方針に難渋する症例であり、筑波大学で治療を望む声もあり持ち帰り相談することとなった。チョーライ病院はホーチミン市を支える大病院であり、常に外来、病棟ともに患者でごった返していた。病院の設備、治療は一昔前の日本を思わせるものがあつた。一流の第一線病院であり大量の患者を治療する必要があるのである程度は仕方がないことだが、学術的な検討、患者のフォローを含めた追跡、治療成績データ解析などが今後望まれる。また、放射線画像はいまだにフィルムで印刷されており、今後インフラが進めばフィルムレスになるだろうと思われる。それに伴いコンピュータ化がすすめば、詳細な画像検討から 3D シミュレーションなどコンピュータ外科が発展する可能性がある。今回の視察で感じたこととして、わが国は、手術合併症ゼロを目標に発展してきたおかげか、一昔前のわが国を思い出させるチョーライ病院よりも、かなり非効率なこともしている可能性もあると思われた。安全を突き詰めすぎると過多になりすぎることもあり考え

させられた。これらの良い面、悪い面を見つめ直すいい機会になると考えられるので、今後も筑波大学とチョーライ病院との活発な人材の交流、医療技術の輸出入、共同研究などを進めてお互いによいところを取り入れていくとよいだろう。

活動時の写真等

